

地域密着型サービス事業所の自己評価項目（自己評価結果表）

（調査項目の構成）

I. 理念に基づく運営

1. 理念の共有
2. 地域との支えあい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用
4. 理念を実践するための体制
5. 人材の育成と支援

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援

III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し
3. 多機能性を生かした柔軟な支援
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

1. その人らしい暮らしの支援
 - (1) 一人ひとりの尊重
 - (2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援
 - (3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援
 - (4) 安心と安全を支える支援
 - (5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり
 - (1) 居心地のよい環境づくり
 - (2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり

V. サービスの成果

※記入方法

- 管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- グループホームの場合は、ユニットごとにその管理者が介護従業者等と協議し記入すること。
- 取り組みの事実を実施している内容、実施していない内容の両面から記入すること。
- 取り組んでいきたい項目に○を記入し、すでに取り組んでいることも含めて、取り組んでいきたい内容を記入すること。
- サービスの成果は取り組みの成果に該当するものを○印で囲むこと。

※項目番号について

- 評価項目は、100項目です。

事業所名 グループホーム新荘の里

ユニット名 東棟・西棟（2ユニット共通）

自己評価実施年月日 平成 19年 11月 23日

記録者氏名 谷脇 さよき

記録年月日 平成 19年 11月 23日

(様式1)

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	・開設前に職員全員でグループホームでの介護の意識を話し合い、利用者の方々がなごめる場所を提供できるよう理念を作成した。	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	・朝礼の時、復唱、再確認を行い実践に務めている。又、全体会や朝礼時に具体的なケアや気付きの中で理念を再確認している。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	・理念を開示している。御家族、来客等に理解を求めている。又、地区会の会合や地域の方々との交流時、イベント参加時等事業所の実践を伝えるようにしている。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	・散歩時に近隣の人達とあいさつを交わしたり、小学生の登下校時の挨拶や話をしたりしている。又、須崎市の花火のイベント時近隣の方々に園庭を開放し皆で楽しんでいる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・地区会に入会、毎月の広報の配布や行事への参加等をしている。 ・地区の研修会（救急法）、老人会、忘年会、溝掃除等行事に参加している。 ・保育園児、小学生生との交流を多く行っている。 		
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の方々が気軽に立ち寄ってもらえるよう催しを考えている。 ・花火の日に園庭を開放している。 ・地域の様々な研修、会合に関わりながら認知症ケアの啓発に努めている。 ・又、やすらぎ支援員の養成実習生やヘルパー養成等の受け入れも積極的に行っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防教室や認知症の理解や接し方等の勉強会開催等、当施設でできることから取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス評価の意識や目的を全職員に伝え全員で自己評価に取り組むようにしている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・自己評価を活用し実地できていない部分は改善に取り組んでいきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で懸案事項（災害時の対策）について職員で話し合いを持ち、施設で出来ることを一つずつ積み重ねていくようにしている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・初めての外部評価の為、評価を受け、運営推進会議で報告し、サービスの向上に務めたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア会議、地域包括支援センター主催の学習会、又、市町村より依頼のある研修の受け入れや講演等に参加、協力し密に連携を取っている。 		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	・勉強会に参加し、職員の理解を深めるようにしている。	○	・管理者だけでなく、職員も研修に積極的に参加し理解を深めていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・専門職員を配置し、勉強会などの時間を持ち、認識の徹底を図っている。	○	・同上
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・入所日より前に可能であれば本人、御家族に施設見学してもらった上、事前に説明・疑問点等を尋ねて理解、納得を図っている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・職員が傾聴し、管理者や御家族の連絡を密にしている。 ・相談員の来訪により、各人別に話を聞いてもらい、又、利用者の立場に立った意見をいただき、運営の参考にしている。 ・玄関に御意見箱を設置し、自由に意見を書いてもらえるようにしている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	・御家族の来訪時や必要時には声をかけ、利用者の状況を話し合ったり、体調不良時等早めに連絡報告を行っている。 ・誕生日会やスナップ写真等作成し、御家族にお渡ししている。	○	・本部施設の機関紙発行（隔月）により、近況報告は行っているが、GH新荘の里自体の機関紙を発行し、継続していきたい。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議に交替で参加してもらっている。御家族代表として意見をもらっている。 ・御家族訪問時には、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりを行っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・家族会への参加を機関紙を通じて行い、御家族同士で意見や苦情等を出してもらえるよう取組んでいきたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の所内研修を開催している。 ・月一回の自己管理シートの提出により、職員の意見を出し、運営者にコメント等書いてもらい、運営に反映している。 		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の状態やペースに合わせたローテーションを組んでいる。(勤務変更により、アクシデントに対応した勤務体制を取る等) 又、管理者は状況に応じた対応が出来るよう、通常のシフトに入れていないため、夜間の対応や利用者の状態の変化に応じた柔軟な体制が取れている。 		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	<ul style="list-style-type: none"> ・介護力のレベル格差が生じないように、利用者へのダメージを防ぐよう移動は必要最小限に行っている。 	○	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者家族への信頼関係を築くためにも、馴染みの職員が対応することが重要と考えており、必要最小限の異動としている。しかし、夜勤者が2ユニットの利用者全員と馴染みの関係作りが必要であり、良い関係作りに努力している。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・個々の能力に応じて、研修参加への呼びかけ等行っている。又、研修に参加した職員には毎月の全体会議で発表してもらい、全職員が研修内容を共有している。	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・四国4県GH協会会議に出席し、研修や意見交換を行い、質の向上に励んでいる。また三ヶ月に一回、市内の地域ケア会議内のGH分科会でも実地をしている。 ・地域のGHの職員との交流を持ち、意見交換や気分転換を図る機会を持っている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	・職員同士の人間関係を把握したり、職員のストレスや悩みを把握するよう努めている。また、夏季休暇や親睦会（忘年会）、地域のGHの職員との交流により気分転換を図る機会を持っている。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	・職員の資格取得に向けた支援を行い、職員が向上心を持って働けるよう、年2回職能評価を行っている。又、目標を持ち勤務に当たるよう自己管理シートを毎月提出、見直すことにより自己研鑽を計っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・御家族の話を聞き、生活状態を把握し、また、居宅ケアマネージャーから生活状況報告を受け、本人の希望や不安を理解しようと務めるよう心がけている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	・御家族との話し合いにより事前対応している。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・相談時、家族と本人の思いや状況を確認し、担当ケアマネージャーや地域包括支援センターと連絡を取り合いながら、必要なサービスに繋げるようにしている。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	・新利用者に対し、1～2W重点的に厚遇し、その人自身のペースを掴みながら、サービスを提供する。その際、御家族より細かな情報ももらっている。また、本人や家族に施設見学をしていただき、サービス利用に繋げて行っている。	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	・コミュニケーションを密にし、レクや回想法を通して関係を築いている。 ・本人の家族への思いや不安等、傾聴し、共に支えあう関係作りをしている。	
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	・利用者の様子や本人の思いを家族に伝え、本人を共に支えていけるよう、協力を願ったりしている。	
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	・GH内での家族を思いやる会話等耳にした時、その事を伝え、又本人が普段言えない事を代弁して伝えたりしている。 ・又、外出や外食を勧めたり、家族とより良い関係でいられるよう支援を心掛けている。	
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・友人、知人の来訪時は、お茶を囲んでゆっくり話ができるように心掛けている。いつでも誰でも気軽に来訪してもらえる様な雰囲気作りに務めている。 ・電話や手紙での連絡を取りもったり、一人一人の生活習慣を大切にしている。	
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	・個々の出番を見つけたり、共同で行える行事や物作り等考えている。又、気の合う者同士で過ごせる場面作りや、毎日のお茶や食事の時間は多くの会話を持つように努めている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	・他の事業所へ移られた方の訪問を利用者と一緒に行ったり、入院された利用者の方の病院への見舞いや家族を見かけたら、近況を聞いたり等の声掛け等行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々の会話や関わりの中で、本人の思いを汲み取るよう努力している。又、意思疎通困難な方に関しては、本人の立場に立ち、最良の方策を家族や職員で検討している。 ・ケース台帳冒頭に本人、家族の思いを記入している。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・情報提供、本人、家族とのコミュニケーションの中で把握している。 ・利用者一人一人の生活リズムを理解し、出来ることに重点を置き、全体の把握に努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	・体調の変化や心身状態を観察、理解し、異常の早期発見に務め、対応している。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人、家族の意向を基に、日常の介護を通して介護計画の見直し、作成を行っている。 ・アセスメントを含め職員で意見交換やモニタリング、カンファレンスを行っている。 	
37	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・プランの評価前に予期せぬアクシデントが発生した場合、御家族や運営者に報告、連絡し、見直しや改善、作成を行っている。 	
38	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・連絡帳やケース記録に各職員が目を通し、現状把握する。又、月一回の各棟の接遇会や全体会を通して話し合い、プランの見直しを立てている。 	
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本人家族の状況に応じて通院等の支援は柔軟に対応し、個々の満足度を高めるように努力している。御家族にも可能な限り、関わっていただいている。 	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	・自然災害等による避難等、地域の消防等と情報交換を行ったり、地域の民生委員と意見交換する場を設けている。又、地区催し物へ職員と共に参加したり、地区長の訪問を受けたりしている。	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	・必要に応じて適切に事業所以外のサービスが利用できるよう外部のケアマネジャーや地域包括支援センター保健婦と連携を取っている。又、本人の家族の希望や体調により訪問理美容サービスや訪問歯科サービスを利用してもらっている。	
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	・徘徊ネットワーク組織への協力や災害時要援護者への対応等の勉強会等へ参加している。認知症共同生活介護の紹介の要請等にも積極的に協力、又、助けてもらっている。	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・入所申込時に協力医療機関の説明をし、かかりつけ医がある場合は、それに応じた対応をしている。又、月2回の訪問診療も受けられるようにしている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	・専門医の受診、治療が必要となった時は、本人、御家族、職員と一緒に受診し、治療や助言が受けられるようにしている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	・看護職員を配置しており、看護職員と相談、意見交換をしながら、日常の状態の変化に注意し、健康管理を行っている。又、看護職員がいない時間帯でも24時間連絡がとれる体制にしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	・協力医療機関、かかりつけ医との情報交換、相談を取り、退院等、その方にとって良い方向になる様支援している。 ・病院の相談員や看護師とサマリーにより情報交換を行っている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	・状態の変化により、今後の方向性を御本人様、御家族様、医師等、相談や連絡を取り、方針を共有出来ている。 ・看取り介護指針等作成し、重度化や終末に向けた取り組みは職員で共有している。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	・状態の悪化等により、GHにて生活が可能、不可能を見極め、かかりつけ医、御家族様等と相談、連絡を取り、取り組んでいる。 ・看取りの研修への参加、勉強も行っている。	○	・本人や家族の意向を踏まえ、随時意思を確認しながら取り組んでいきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>		
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・今までのなじみのある品物、服を取り入れ、自立で決定の出来ない人には、アドバイスを含みながらサービス提供している。 ・理美容は御家族と馴染みの場所で整えられるように連携を取っている。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・可能な範囲で、下ごしらえ、下膳、洗い物等をしていただいている。 ・個々の能力に応じて行ってもらっている。(得意な芋の天ぷら等) ・職員と一緒にテーブルを囲み楽しく食事ができる雰囲気づくりも大切にしている。	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	・一人一人の嗜好物を理解しており、それらが楽しめるようメニューに取り入れている。 (又、タバコについては職員が預かり、希望時に換気の良い場所で吸ってもらっていた。希望があれば随時取り入れる予定。)	
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	・排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者にも時間を見計らってトイレへの誘導を行っている。	
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	・利用者のその日の希望を確認して入っていただいている。一人一人の気持ちに合わせて入浴してもらっている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、安心して気持ち よく休息したり眠れるよう支援 している	・なるべく日中の活動を促し、一 人一人の体調や希望を考慮してゆ っくり休息が取れるよう支援して いる。又、就寝前には水分補給も 兼ね、暖かい飲み物を飲みながら おしゃべりしたり、配慮を行って いる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの 支援 張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、楽しみご と、気晴らしの支援をしている	・過去の生活歴を元に、その方の 得意とする場面づくりに心がけ、 その人らしい生活を尊重している。 ・野菜の皮はぎ、後片付け、花や 畑の世話等の、その方の出番を全 職員が把握している。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援してい る	・家族と相談の上、一人一人の能 力や希望により小額を管理しても らっている。外出時や買い物時 など、自分で払ってもらえるよう 支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一 人ひとりのその日の希望にそっ て、戸外に出かけられるよう支 援している	・天気や本人の気分、希望にん じて園外、園庭散歩が出来る様 支援している。又、良心市への買 い物への参加等も行っている。	○	・今後外食や、お弁当を持って戸 外に出かける等計画したい。
62	○普段行けない場所への外出支 援 一人ひとりが行ってみたい普段 は行けないところに、個別ある いは他の利用者や家族とともに 出かけられる機会をつくり、支 援している	・外出希望がある方においては、 御家族様と連絡を取り、可能な 範囲での外出をしていただいで いる。又、頻度は少ないが、入 居者、職員とで気分転換にド ライブへ出かける時もある。	○	・外出する機会を可能な限り、 増やして行きたい。例：ふるさ と訪問（個別に自宅近くへド ライブ等）


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話での会話が可能な方に関しては、本人様の希望がある時、電話にて会話出来る様に支援している。又、正月の年賀状作成支援等も行っている。(御家族によっては、往復はがきで音信のある方もある。)		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	・必要に応じて御家族様と連絡を取り、仕事の合間や、仕事帰り等御家族の都合の良い時に気軽に来やすい雰囲気作りに努めている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・研修への参加、職員全体会、又資料を元に職員全員が共有認識を図り、ケアに取り組める様努力している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	・認知症のレベルの違いもあり、昼夜を問わず無断離園がある為、時間帯によって玄関の施錠を行っている。又自室が認識できない為、他利用者の居室に無断で入室される利用者もいるため、他利用者から苦情があり、要望のある利用者の自室には鍵を設置した。	○	・開放的な施設を目指しているが、時間帯によっては離園の心配がある。(時間帯によっては玄関や居室窓を開放している。)
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	・職員は利用者と同じフロアで記録等の事務作業を行いながら見守りを行っている。夜間の休憩時は利用者の声や物音が聞こえる場所において安全に配慮している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	・利用者の状況によって嚴重に保管すべきもの、保管管理が必要なもの、利用者が使う時に必要なもの等に分けて管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	・一人一人の状態から危険を予測、検討し、事故を未然に防ぐよう常に目配り、気配りを心がけている。誤薬については、必ず氏名、日時を声に出して確認する。 ・日々のヒヤリハットを記録し、職員の共有認識を図っている。事故が発生した場合には速やかに事故報告書を作成し、今後の予防対策を検討し、家族への説明報告を行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	・職員の研修参加やミーティングで周知徹底を図っている。又、緊急時のマニュアルを作成しているが、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に受けてはいない。	○	・消防署の協力を得て、救急手当や蘇生術の研修を全ての職員が受け、対応できるよう取り組んでいきたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	・マニュアルを作成し、月に一回は避難訓練を行っている。又、消防署の協力を得たり、地域の防災訓練に参加している。	○	・今後も定期的に防火訓練、避難訓練等に取り組んでいきたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	・必要に応じて個々の予測されるリスク等について御家族に具体的に説明をしている。（転倒や離園、誤嚥等）		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	・感染症研修会に参加したり、マニュアルを作成し、全職員で学習し、予防対策に努めている。玄関での手指の消毒やペーパータオルの使用、インフルエンザ予防ワクチン接種等、予防に努めている。 ・職員の研修参加や回覧等で周知徹底を行っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・まな板やふきん等を毎晩漂白し、清潔を心がけている。又、食器調理器具は熱乾燥を行い、台所水回りの清潔や衛生に心掛けている。新鮮で安全な食材を使用する為、鮮生品は当日の配達のものを使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	・夕方、ポーチ、玄関等の点灯をしている。又、庭の植木、花木等の手入れを行い、季節感を大事にしている。 ・入り口や玄関内にベンチを置き、一息つけるスペースを作っている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・明るすぎず暗くない様、照明やカーテンに注意し、食堂、居間には季節の花や行事の（季節の）ポスター作り等をして貼り付けしている。 ・まな板の音やご飯のたける匂い等五感や季節感を意識的に取り入れる工夫をしている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・リビングにはソファ、TVなどを設置し、和室には人形や、コタツなどを設置している。又、庭にはベンチを設置し外気にふれながら過ごせる様に工夫をしている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・タンスや椅子以外にもそれぞれの利用者の好みや馴染みのもの等を生活スタイルに合わせ、居心地の良さに配慮している。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・外気との温度差がある時は、温度計と利用者の様子を見ながら調整をしている。又、場合によっては一人一人の状態により上着を一枚増やしたりと、こまめに配慮している。 ・一定の時間を決め、換気を行っている。又、トイレは常時換気扇を使用し悪臭が出ないようにしている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・手摺りの設置、段差のない建物、又、歩行困難な利用者に対しては手引き歩行等を行っている。 ・車椅子、シルバーカーの使用が出来るスペースの確保を行っている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・混乱や失敗が生じた場合は、その都度職員同士で話し合い、本人の不安材料を取り除き、力を取り戻せるよう試みている。 ・夜間、トイレの電気を点灯し戸を開放している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・菜園、花壇等があり、収穫や草引き等に呼びかけ、参加してもらっている。又、天気の良い日には花見等も行っている。 ・園庭は車椅子の方でも空気や景色が楽しめる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・その人らしくゆったりとマイペースを尊重している。
- ・レッグウォーマーを活用して下肢筋力を維持し、転倒を予防する為のリハビリを生活の中に取り入れている。
- ・近隣の幼稚園児や小学生児童との交流(子供の姿を見ると利用者の笑顔が生き生きとする為)